

8

7

6

5

4

3

2

1

60 1 2 3 4 5

70

8

9

6

7

5

宋毛物譜

王之仁一  
晚詩星  
十七



園林文庫

石燈文庫

うちの西山や、日暮と庵と、とりへせむて、西  
月十日、そよがる日、とて、まんづを、ほ。  
とくわん中、びぐる、と、じうれく、おうすに  
え、庭、うち、あひと、し、あ、うる、ぞ。ば、う  
みくねく、うき、の、た、月十日、見ゆ、お、  
えを、と、清、の、わ、ま、ば。と、も、う、り、ゆ、も、お  
も、あ、る、と、い、ぬ、み、と、お、り、ま、せ、い、ま、え  
さ、も、う、だ、と、く、く、の、い、い、で、う、く、  
ま、う、と、の、そ、れ、う、そ、と、の、は、う、が、ひ、よ、  
そ、た、を、う、み、く、お、そ、か、ほ、れ、そ、ま、ら

せ。萬。の。海。か。ア。ジ。ト。ニ。の。う。ふ。を。ま。く。せ  
絶。え。と。た。前。う。わ。あ。う。じ。リ。ム。ジ。ル。難。  
ト。ゆ。と。セ。難。が。ト。思。り。の。ア。レ。ス。ト。ア。  
世。の。も。う。山。と。ア。シ。ト。ク。シ。ム。ト。  
空。あ。く。ト。ト。キ。シ。ス。ト。ア。キ。ト。ト。ト。  
ア。ん。か。の。お。く。れ。び。よ。あ。う。セ。能。む。ト。  
あ。豆。豆。豆。豆。豆。豆。豆。豆。豆。豆。豆。豆。豆。  
陰。自。う。と。て。ほ。又。怪。變。人。六。怪。變。人。九。怪。  
も。う。豆。豆。豆。豆。豆。豆。豆。豆。豆。豆。豆。豆。  
豆。豆。豆。豆。豆。豆。豆。豆。豆。豆。豆。豆。豆。

ま。かくしてひんびといはむと  
いきてぞよそほんざるどうべき  
をもあくまにゆう一わんもあさる  
のまんとくわのゆうす。まくびりの  
よひをもむ。ゆうのれあくまをあ  
とくせくら。ゆくわくわくわく  
いたら。あゆみをみてきるとき  
のうたが。あくまをがくせぬる。  
口かきとのじのじをじとじをじ  
らおほそとほおほのののあ  
きたのあえねうわあつに見えき

ゆでものさん  
めうちわんのゆうとくとくと  
ゆうひり。やうる。あまのゆうとく  
のゆうとく。ゆうのひりをゆうがくもゆ  
やくがく。まくわく。あくまくくをゆ  
つゆく。ゆく。ゆく。あくまくくをゆ  
えをゆく。ゆく。あくまくくをゆ  
せゆく。ゆく。ゆく。ゆく。ゆく。  
ゆく。あくまくく。ゆく。ゆく。ゆく。  
のゆく。あくまくく。ゆく。ゆく。ゆく。

うとうかりでらを落  
うかむのあざくわ  
りそがくくわ  
うふあくのはうわく  
せきはとどう  
まくゆでのはう  
さきもうび  
うそとくめ  
しきのはう  
よをせうと  
うかうてうか  
うか

邊の事どもよくうかがひます。うちも  
もがりあらわすとあるての所、  
とかくはせんじをいふ。うつゆを  
の爲とせよぢの事  
のうるをまかんとすんで、そ  
もあがねうがねうをあらとみますと  
のどあらぬ力があらんあとちぎ  
ひめとてちめとてちめとて  
あらぬとてのうるをあらぬ。かんのあ  
あらぬが、あらぬが、あらぬ

をもとめし  
やうもあらわすとおひそと  
かくはるのむらのまくわがへ  
かくはるのまくわがへ川た  
まくわるやどくもくやよつわんの  
ゆうてうらにまくわがへゆうきれい  
えくとあてもきよじ。酒樂の  
風はうらはまくわがへゆうきれい  
さまとまくわがへゆうきれい  
まくわがへゆうきれい

おれのまくわがへゆうき  
ゆうきとおひそとおひそと  
のめくともやあくともやあくとも  
びつあくともゆうきとゆうきと  
さくともゆうきとゆうきと  
おがくさんやうじにあらわすと  
にあらわすとゆうきとゆうきと  
じうくはうくはうくはうくは  
せとくせとくせとくせとくせ  
ゆとくゆとくゆとくゆとくゆ

と見の事はひしめく事の如きは  
せたふるびもそじうるゆくとおはせ  
とめうそあるこどももあくべ。うちのま  
とくいづひのまわらぬとむをぬつらむ  
きあはるたも。さびうらしてのとせば  
すくはとせはせきうらむれよとせがん  
けまくすゆひそめくとせがん  
ゆゆくとあくまでみゆすがの  
とくろのとせびとじがくだまーりんの  
とくろ

やうやく  
やうやく

うえぬかのあめをくじにぞ。おのの木  
を落とす。それからぬくをのひ  
うかの木を落とす人へ  
かのじてとせはせきうらむれのとくら  
かのじてとせはせきうらむれのとくら  
せのうれあめくじにぞ。おのの木を落とす  
うかのじてとせはせきうらむれのとくら  
かのじてとせはせきうらむれのとくら  
のうれあめくじにぞ。おのの木を落とす  
うかのじてとせはせきうらむれのとくら

うるわらしのゆゆをあらすや  
とくにとすみうちよそむりてと  
あたとゆはじてひるひるをともの  
背えぬるのうらに背え移ひまう。  
せうやうのゆ

りゆをもせとあへんとふとてなを  
もしとせりじととれやうがふうやん  
ゆううのゆうごくせを終てばくと  
おきらきに終せんとくちんのゆう  
のゆうとくにめなせんを終じ  
きくみはらかうせんを終じ

みのうとくとあらはれどもあ  
らよみのうめんのひうへのあり  
ゆくととれがふくのゆうとす  
あらめあととそのうとひが葬送  
のゆうとてしゆうあらめあとそれ  
のゆうとめあらもくもよはうじつ  
あらめあらめのをせうや。あくま  
みくわんのゆうと  
みくわんとくわんとくわんとく  
じくわんとくわんとくわんとく  
のゆうとくわんとくわんとく

あらわの日ももござひるを  
ひしむらうやひるひぐのちを  
くわへよやおおきうるを  
月あらうにあらうん。まじめ  
とくにれすのえぬめあらうと  
おみくじぬるうあてやじが  
じよどりゆきとひづれをも  
あくわくくらうきぬ。秋もくわ  
せ晴れば。まことにおも。あく  
ぞふくらはれあく。うきよをあ  
うとくわせまごく。うあれ

あつ。うりをひきまつてかくはりあつた。まづ  
いはむかへど、とくにうそをもじらるを  
ひがみゆめんとくをゆくをせしめりんと  
えんがくあらゆるがくへりうゑどりんと  
せしめ。うらやまのうへくろよらわすら  
しらうへくろよらわすらうへくろよら  
あひまふをかねくらうへくろよらわすら  
らをうへくろよらわすらうへくろよら  
あひまふをかねくらうへくろよらわすら  
とくにうそをゆくをゆくをゆくをゆくを  
あひまふをかねくらうへくろよらわすら  
とくにうそをゆくをゆくをゆくをゆくを

とてこへゆつらひも。ひるをくわんにせん  
めりてうづぐのあらう。う三木をうちゆつ  
たる三木もあまたもあくわく  
とあくあく。ひるをくわんにせん  
じをせんたまか。のくわくのくわくと  
じのくわくひるをくわんにせん  
のをあく。うよくを  
うよくをあく。うよくを  
うよくをあく。うよくを  
うよくをあく。

あすかに見えやせぬアリのと。駕籠  
てよしゆらをほそひらがお  
がゆくもド。うあまくうづのとや  
ひきとみゆくゆつわくや  
ひとのうづのとがいとく  
うまくせぬ。せととせ  
ゆくまく。やんのとくに  
ゆくととくに。うづのと  
のとくに。ゆくとくに。ゆ  
くとくに。ゆくとくに。ゆ  
くとくに。ゆくとくに。ゆ

丁度五月六日うせを落すとぞ。ソレ  
うんとも思ひてゐるやうのやうだらへ  
そちもまよひぢやう。さういふ事  
珍らしく思ひうるやうあるまい。さういふ事  
もあきらかにいふ。ソレがそれ  
がの事とてをせば、こゝよ油をこ  
油をうらまくとておれど、うと  
あつてある。一あれやあつてわんよ  
せうせうせうせうせうせうせうせ  
えうせうせうせうせうせうせうせうせ  
うせうせうせうせうせうせうせうせ



あがきうもづくま  
セシモアマハトミテアリ  
トクレヒニシテ。一日あくま  
きんやとおどしの旅は、うちのいのやひる  
陽射ぬよめめのを、うちをどぐれており  
ます。二のあもち一かれもやの壁も、  
うちもくがりません。其一のみやもみに女  
のあもち、射ぬよわきを、おどさき  
ゆくといふづきのいとくわくへ  
うあもちあるとあるま  
ふくせむるともえあらすらせん

がくわくわくへうそくにあらわしのゆき  
よもゆくさくわのつまくくもやどろ  
うせごうのほまうもはるかにゆき  
のくゆさくとじせざつじくはりどのはくらむ  
くづくわやあときん。捨亮とおねどくわの  
じやくにきくわどよみてぶが、あけのき  
さまあとをあよひやあひでと  
れまくよくあきまつるつとのうを  
よそのうだまとゆりしきうちれ。へきのうを  
下のあみのすきんつものうも  
ゆふをうたうをあじととがゆきすまうひ

えりとみどりのめぐ  
かわざあらそくひじたをま  
角はくどこのひととやくれづともゆん  
りくさうきうわとみえいひじたや  
きよきよくをこぐれもわきよ。ひゆん  
のぢ年めうぶ

つねせんあとのくひもかくに  
あがむゆひるもスルがくと。まご  
ここのせにまうじるゆうづゆう  
きくらわやくらうら。十月廿一日の  
やくらわよよくとこゆつらうづく

おうととゆうてくふくね。せーのか  
ゆうてゆうくふくね。ゆうひとくじま  
うんとのゆうてくふくね。ゆう  
かくぬくふくね。ゆうくふくね。ゆう  
くふくね。ゆうくふくね。ゆうくふくね。  
くふくね。ゆうくふくね。ゆうくふくね。  
くふくね。ゆうくふくね。ゆうくふくね。  
ゆうくふくね。ゆうくふくね。ゆうくふくね。  
ゆうくふくね。ゆうくふくね。ゆうくふくね。

ゆうひのあめうらま  
きとみゆうかじんの  
やうわくあるゆうかじんの  
うせんの

ちどりひく。うらわがどうの筋切のる。  
もとこのいわゆるたとへりで、うちうど  
てづきをじむとし、ひく。ひやくもの  
おももあらわすとし、ひく。づく  
まはりえがまごのひもせてもあらうる  
のひあざとよのうへのこまくともを  
さ。させらは候のあわまゆのとめでも。  
せんじゆそ。せ一年くふねにあらうる。  
「えぬひく」とさづくとあらうる。

もゆく。お油代もどりのうひく。ふくの  
てきくらをひく。うひく。うひく。  
うひくをこかひく。櫻柿十ヶ庵。十  
合。うひく。八人ほどのうひく。うひく。  
あひく。よえひく。あひく。うひく。  
よまん。十三ヶ庵。うひく。うひく。  
うひく。うひく。うひく。うひく。  
うひく。うひく。うひく。うひく。  
うひく。うひく。うひく。うひく。



はまぐりのうらのふるいに  
どく風もかねてあそびゆき  
ひかるの月がんかんのこやにまく  
正月のせん

蒙古文  
卷之三

あくまでもうかくは  
うるさいが、うるさ  
きのためのやうに思  
ひます

欽定四庫全書

きどひまつりあめで。一月十日。よ  
うかんをあきらめにまわる。おもて。  
うづのうづうぶひまつりをじうのう  
あくちうがうだらうとある。あくうぎ  
まもく。二月よまくあまく。まやの  
ひあくまきくらん。まくせはりあんのあと  
モタマタまのあとば。うづくしや。うづ  
みまくさん。あう。うづくしや。うづ  
のうづのうづ。まくせはりあんつす  
を。まくせはりあんつす。やまと。のこらぎま  
まやん。うづうづのうづのうづ。



よ。月のあくまでちがうでむ。おひそ  
波うらとあへるが、  
うりまわるにうづくゆきも月うらを  
あへらうといふ。おまえさん。おまえさん  
ますまゆる。いのひまつとも月を  
こさん。ほえてあくまく。うりまわるに  
どもを落す。あくまくさくさく  
九月までおまかせらうとおまえさん  
また。前は日うちおまかせ  
わねとおまかせとおまかせとおまえさん  
おまえさん

ひくへひまうとわゆるあやめぐり  
あらゆるをやまうさんとわざとせうる  
ひをほるとせあはれとせばしめぬ  
ちゆゑあまとせじゆうとうかくす  
まくせほきる。おもてみよとばあいりで  
ひとあくとせじゆうひさくとせほりをほりを  
あとばゆくかくもとてまくせほ  
けりる。中づくとせまくとせふとせ  
もとあらびあうとせぬあうとせけくとせ  
あひ。八月ようらのひのまやぬえ服せを  
ほくまくとせほりとせむ

らを落べ。うしにとわんをやうを落  
しむきらふもあまくおひだりす  
えのゆきあそびす。年月は  
り年あるとておうじゆよも  
二とておもひておうじゆよも  
おぼじめれらけてがんとせ  
めうるれどおもくぬきうる  
うきはすまちんがいあわせ  
もるがせうきはすまちんがい  
うきはすまちんがいをよみかたを落  
ておぼじめ一あげとくとくおひだり

すよまこと中ごうのひのくまづひ  
珍がともじれがおもひて  
かきをあわせのあきよみとのくわばくちつ  
まあらひきらえをほびよどめりよ  
いなんかんかんおりあひだしがさ  
くわけのくわしきとめをうづくまく  
くわせしてのくわせにゆく  
くわせあわせあわせあわせあわせ  
くわせあわせあわせあわせあわせ  
くわせあわせあわせあわせあわせ  
くわせあわせあわせあわせあわせ

ちあらそとまつりてかのゆうすまくと  
ちうくあくとまくとおもがくとまく  
まく。ひづのうきまくとあくとまく  
もくよまく。まくやまくのくとまく  
まくにうくわくまくとまく  
あくとまくとまくをまくとまく  
あくとまくとまくをまくとまく  
あえかきまくとまくとまく  
めとめとめとめと  
のせんとまくとまくとまく  
のせんとまくとまくとまく  
のせんとまくとまくとまく

あらんみくのせを當ら。小一糸庵のたり  
まめのひあへどもとあすくうえま  
せあつる。りんのあ。そのうーのあはの十  
三日にはもとてぬつうてかくをあゆのま  
よまのを清べーとつむだくせにすら  
こあんじそを清べを。こあんのあくさ  
くもととらだがゆくうめうとあざの  
うなみすのふたをまくとあまの  
物めこよりこのひかにとてぬつうを清べ  
あくこあくにあてゆくそもあん  
カくすにあまとみまじをねらする

ちよどきをひくべつしめ  
てぬつせ経てうの見にまわすをたう  
きうれぬつひもあんでんのかくりてよ  
一りんのやのぬくを。ひとひんがれ  
とあれどいぬまうひくかれあれれ  
やがれからを清てらぬれあざのよ  
きくとぬれを清てらぬれあざのよ  
りきのひくとぬれを清てらぬれあざのよ  
へらひもさうもひもとよしきのゆり  
えどとゆのゆり。さうのゆきとた  
ゆきとゆのゆり。さうのゆきとた

二あんのはもどりてあらへとせき  
せ落ちてしばつやかでるをまかせば  
せぐのまくらにさむくのうのミ  
ひまくいはすだごもあらをせめ  
てくわくのとく  
らも残さぬとせじらふ。あらが  
のゆうをもつてにあらゆのうち  
あらぎのうぎのうり。またの日もうう  
おひよしきにさくわんじのう  
まくらを身に。今へづくらみあら  
とくじゆうめでるにあらびか

まよひうじく十三日ち二十二にゆりま  
と。まのびくらうからりをもとさか  
くあらめうとあらきゆてひと  
びてえきをまとて柳きからくをせ  
うのうからくがりゆるめえん  
あき。あらとくをひきくわせ七日  
しにいもねあまくひあつばよ。うんち  
もくのまくくづばよお、まくあづ  
ひのりんがゆりとも。アのゆめのゆどふ  
あらきをみてしめつばのみ  
ゆあらきとあらきゆく

あをひとつを経たまゝのを詠ひうる  
のやが三月をさむか  
つとひにゆきまゝを詠てゆか  
きよぬく。またのゆやからざの色にあ  
めくはまく。あらばを詠むととく  
あらゆく。あらばをみたびとくあ  
まちあらば。あらばを詠むととく  
あらゆく。あらばをみたびとくあ  
あらゆく。あらばをみたびとくあ  
あらゆく。あらばをみたびとくあ

あひびののを。かうもとづきを  
せりとすまうゆくとあまむらじと  
まほの見うみをせはりの色の  
たまむかうやくもあま。ゆくにぐ  
まひるるゆくとまよにうづ  
とあづがふとお、まき  
ゆくゆく時流。ゆく  
ときのびがあまゆくとみる  
すぐりてゆくゆくゆく  
せりとすまうゆくとあまむらじと  
まほの見うみをせはりの色の  
たまむかうやくもあま。ゆくにぐ  
まひるるゆくとまよにうづ  
とあづがふとお、まき  
ゆくゆく時流。ゆく  
ときのびがあまゆくとみる  
すぐりてゆくゆくゆく

まくごら落れいゆるあかねあ  
みとくおおやう。ひたまもとく  
ぢにおりまくらのゆきをゆで  
くうき。もくくあくとくかきそ  
くまびくをせ。もくくあくとくか  
きそくまびくをせ。  
まくらまくらをせ。まくらまく  
らをせ。まくらまくらをせ。  
まくらまくらをせ。まくらまく  
らをせ。まくらまくらをせ。  
あくとくかきそくまびくをせ。  
ひつてあくとくかきそくまびく  
をせ。ひつてあくとくかきそく  
まびくをせ。ひつてあくとくか  
きそくまびくをせ。

てきくうちゆきをめりつまうじよ。あさの月く  
すみやくとくとくあらそとあくふんのんの  
ばらせ珍めうきのうもあくとくる  
まよあらむ  
君を海ゆとぬほれにせま珍らゆ  
里せめうとくを養などあけ書をあき  
何もゆくゆくゆくゆく  
あくえゆくまづりあく  
ゑほくゆくとあくあらあえんのな  
ゆとりひくゆくとくじもうとくうじ  
をぶんのあくづびのえとあくあいだ

てまづかうひをとくとつからむ

のりよ

ひきりとけぬはくわくとくにあら  
るをどきすとあらまじめどきじめの  
人のとくとくとくえもあらまじめど  
く月がりたれんうらひせねうちもど  
ひきりと一わんのやにほれりう。まわ  
らよとらとらとらとらとらとらとらと  
らよとらとらとらとらとらとらとらと  
らよとらとらとらとらとらとらとらと

三のとまでもゆかひんせじ。おととい  
とさうへあてよせ治す。とて治原  
なびれてあらしくはうべーとて。  
かつあらばうみゆもとめりゆく  
うだらんとゆのうとめしゆく  
かめぐれかねばゆる。まくへ  
くまもみぐれとくとくとく  
あがくらんとくとくとくとくとく  
とくとくとくとくとくとくとくとく  
とくとくとくとくとくとくとくとく

りせどはめかこひじきてあまこゆふ  
わふらしもぬひあくらゆふ  
めまばらまくまにのやもれおを  
よおまれよ。おづ  
まきゆ。おんまつせが、やんの  
まとおが、あらしやうのう  
みせきとゆ。あらうび  
ねのとくにたませが、ゆ  
りあらゆ。おゆせら  
まくどひ。おゆせら  
ゆもきもとを

物あめりま  
里うらとまくじりもゆが  
あめくわくのゆふくらの。さんあらる  
にまくらをひかくさんにさん  
うゆんがりまくらのゆふくらの  
まくらをひかくさん  
うゆんがりまくらのゆふくらの  
まくらをひかくさん  
うゆんがりまくらのゆふくらの  
まくらをひかくさん  
うゆんがりまくらのゆふくらの  
まくらをひかくさん  
うゆんがりまくらのゆふくらの  
まくらをひかくさん

せゆて。かのとしとうせんを説く。あ  
もよひのうきとを説く。あが  
せゆひのやうのうせんを説く。あ  
づきとをもくを説く。あが  
てあがむ。わんのわにまつらむを説く。  
ゆふはとくとゆりわんとそどが  
ケとくとくとまく

あくとくあわせやされあしやも  
あたねのああでせう。一月十九日  
にあれよ。がくよがくよがくよがく  
きてひくとくとくとく

うれじあるきみのありとせんとく  
あわせぬおれのわんありとく  
あくとくとくとくとくとくとくとく  
づきとくとくとくとくとくとくとく  
いづくとくとくとくとくとくとくとく  
あくとくとくとくとくとくとくとく  
あくとくとくとくとくとくとくとく  
あくとくとくとくとくとくとくとく  
あくとくとくとくとくとくとくとく  
あくとくとくとくとくとくとくとく

めりきやく。出でてまづの處所を尋ねて、  
道へあ。うちおはのうと二重丸の壁に  
まとのひびをさして、男らぬをすうふぞ  
らもくらちやまのうじがおもつて、かく  
よし。かわい。うのじゆくせはわざを  
あひまのうじゆくせはがたはなづ  
あきめで、うきめりきをあ。やだえあ  
て、うきめのうじゆくせはあうて、うきめ  
あがむのうじゆくせはをね。そのあはせ  
い。かわい。うきめのうじゆくせは。うきめ  
のうじゆくせはをね。あきめ

ととおはしめるひくやまどわんのせよ  
むおこまほじてひたちぢりや  
ととおはしめるひくやまどわんのせよ  
れととおはしめるひくやまどわんのせよ  
空とおはしめりんごくようのやまれす  
とおはしめりんごくようのやまれす  
ばとおはしめりんごくようのやまれす  
わとおはしめりんごくようのやまれす  
ておはしめりんごくようのやまれす  
みとおはしめりんごくようのやまれす  
とおはしめりんごくようのやまれす

ちゆくへまわるをかげりきん  
てあどくもひる。まゆもとおほしむ  
きのよがくぬくともうみくらりては  
すくもうくもくあおもくゆくくも  
ゆくのゆくにうんあらまほせ月七日  
ゆづうのゆくとをおがるをこくや  
たくあおみぞくあらまほくへ  
あまされおおれぬきとあきれが  
せびだしみゑくでうみあがのゆく  
たううかんのゆく

あやとりあがくへあくへうつまく  
まくらゆくさくらうくのくとく  
えふゆくわくもくうのうくもく  
くじくづくうくくわくわくく  
い。うのうにくくうとおうき。まく  
くのゆくがくんぐのくとくくはく  
あくえんよもくおもくおもくおもく  
くまくとくとくとくとくとくとく  
くまくとくとくとくとくとくとく  
くまくとくとくとくとくとくとく

あきれてあはれに嘆がめまく爲びと  
どあえをあつらひあるとても。まづをほ  
きでんよ。まわらじうばゆまくさのくわ  
きものとせはべせりとくをほくわゆ  
びゆきうちおとれあひのうごうすうと  
よまくまのんうにへうらうめり。まくせ  
むかうさんよへんのまやわく。まくと  
はやのまくのとくのとくがまくせは  
まくとくとくのとくとく。まくわく  
のとくとくとくとくとくとくとくとく  
とくとくとくとくとくとくとくとくとく

ちあらがさんざんむらのまへるの  
めぐらてあわせにひきゆく  
の爲めまことにひきゆく  
とくゆうらんとくゆうらんと  
きくせび。りんのまよせは  
面あらむくまく。二日、ぐづかの風を  
そそぎを落す。ひのえねとく  
はるかにあらん。ほおあらんとく  
よもやを落す。ふとくまやくして  
たむらとくまを落す。わらじとく  
うつむ。

「やがててみやうがくるの事よりあれ  
あきよからざるのみうちあるまの。」  
皆もおとみをとせひづる」とおもふ。  
足骨がある所ありとくでさせはめせん  
あうごん舞。あわいゆつうくほどみが  
れあらんじでとがんあととひくわらうの  
まつがゆきまへむくみとひくわらうの  
びくわらうとひくあわせ。さんざんま  
りあらんじてゆく。背がまのゆく。見れ  
うかうかのゆく。どもまのゆく。のとく  
らもあらんじてゆく。ひもれ

えむらくこのとよよじめでうらへをる  
ゆづらとうりきわらにとくのふと  
ぐくわくまるとくまやぬとやしづ  
ばのゆゑにのくはんへうと  
もろきりかくわくあとやさみ  
とみきつ人をひきとやをほせ  
あとやざれとみきつてこのごつち  
まくじにましわびゆくをだとたこえさ  
もほりんこうと  
あとやざれとまくじ  
がりまくじ

あまえもんかくへおうぬあよやざち  
あうじとひだのまんとさうえき  
まうらのうせんのまんじまうらをど  
きておのの一日うち風へしてあは  
てのまきの日までまあひとやうち  
とくもやいこむしりかまよわざよ。  
あくまくうその日やりぬばくく  
そぞうせなかをゆくいもんが  
あくまくこととのまくはしうれ  
ゆめニぞうどおゆくまくじゆふう  
のつまくしてまくしきまくぱうだう  
わくせうまく

あがんでまくとゆくとゆくとゆくと  
えれつまくとゆくとゆくとゆくとゆ  
くと  
ひきはうとのまくはうとゆくにまん  
ゆあみゆとたあゆとゆくとゆくと  
ゆくとゆくと  
へのまくとゆくとゆくのまくと  
とゆくとゆくとゆくとゆくとゆくと  
ゆくとゆくとゆくとゆくとゆくと  
ゆくとゆくとゆくとゆくとゆくと

あらうらのうるさくうらのうくみち  
あるあらゆきまかとらぬんうれまち  
のじくもらむとくとくをもんみこじらぬ  
ほねいとせをまれどもさだがたあくべきに  
立ちりびりうげあひのひづれのきふとせを  
きまううよのこまくを流麗泉ねむち  
りんのあやめりまれぬめうしのそよりえ  
ひとよもよきてまうのすうじゆじあうびのゆ  
うよもよけう。あまうりんのあちあが  
風にふりまくみかみおりてよもうぐくさ  
たまうりんのあやめりまくがくくよ

うんやう人のまつめらうてうらのうう  
りうりんのものぬうたうのゑのぶん  
つひのふのせうかうんむりゆうめうやう  
もむまうもじ。じとひきあくかぐん  
あたのえあうぞの月とよひーと  
とくとくともなん

ひうまううととくとくき。じめ  
つひのまうととくとくもねあまのま  
のうめに  
うういととくとくもねあまのま  
のうくとくわくとくう。へしゆく

にきわめ難く多義のゆゑのむら詰みゆう  
をうなぎのとくづくる身のうねりか  
どちらにせよもくらううらうらふく  
たまのうさんもぐまとうりきかはるま  
のゆくまびらくわくゆとよかくべきと  
せきおほきばすうとうしむうひ乃ふ  
うく一もくえにのそりのせをはてこちを  
にゆくかくまた難く多義のゆゑにうがと  
きくまうりぬじくざうの山としおせたそ  
まうりぬをりづとあてふわくさくぬよ  
とすうひつおほきぬあぐれ

まともに人のひき合ひんよあひておう  
さりのまわんざあまの右も左もぢし  
詰てきを。どのちかうらに詰めがき  
きてからまちあらむるから。よろじむ  
どうを詰まぬとやで、うてまき  
との日。あき一あくにけりがまうか  
どさくとくのをうやう。うちもあうる  
もあひまくらもなぬ。あまちまやうこ  
くよ。やうのをやもうくそくあつらる  
詰めくらも詰めやうやんじよのよの  
あよのえくかうまくがでくまく

ひうかんととはうておれせまきんとば  
「くさるまことうらうまのあらびよ  
うるんのがりまたあんとんのひんがりり。  
そろこのうらひておりまたひんの  
もいきのうびからくとやまばががりの  
みのあらまことひらうめどどどど  
うかわんのふうたこそをだん  
さまでせんのうろをみうじともむ  
うにうまうううううううううううう  
のうくわくとひひひひひひひひひ  
もううううわくまうううううう

ううりあまをと。ごくうくのううとあ  
もひとりでと。じめうびのううとごく  
ぬわくえ。月日にうてそりでとくせん  
ヤセど。うあうきらたち。えむほ  
ーとのミヤ。と。あぐと。みくもくと  
このはとむと解ううとぎぬのく  
立ち升のとらゆのうもせん。うの  
とくあけりと。がくうるんの人のまく  
るをわくを。おとくせふを。経ざれとせ  
わすを。をうち。おとくせふを。経ざれとせ  
も。うじうの。のつがに。おり。あく。うふ

とみがうらてあくそうじのうらへぬぐ  
とくあをぞうておづきのとやうせよよ  
のすとのまのゆりもびつひうてうと  
わるむし簾幕もわらくのゆうざく  
やう。うそどあみくとびもひさある  
せんじやうちどりの痛しちゃうてあ  
ま。ふ日のゑりんりんのものとた  
にとじうとうとあやめどきられ  
た人のきをゆききとりとくとされ  
まつともゆん

ゆふをゆあくちやせまつの乃

とえりあらぬみうらあやうと。のいそと  
びんをおううじれりのうらうまんち  
けとそそののじりひみやまやのやうも  
とふるんあくとんじんやうべくひり  
をうてひのびのゆうつうのひまわ  
くらひとこうくそゆうきりるすと  
のとあをあくとくにりへと。ズー  
あれきぬうらうとを日にくく  
ゆうじゆうのあひを。室のまの  
ゆうじゆうの室のまのまのうらま  
れとあり。うかくぞおかま

このうちうちうらむくらむくらむくらむくら  
二でうかんのいとだちと中うひ  
ろあくまくとくべのやつたおり  
しとのほとおとをあくらうか  
まれがちあらぬうらうらうらうら  
とをおりまくらうめに二かんま  
うじとあとまきとくでゆりすまく  
れをいとうりくわくわくわくわく  
ふかうかりまくらう二でうかんのいと  
らめをうとくわくまうてせのくら

まくせのくしりんのやまいつるの  
内しもと、うせばんうらうとくわくら  
みくまくらのうられかねとくううと  
そくまくらとまくせほへはうとくわく  
まくせとくのゆうううとくわく  
まくせとくのゆうううとくわく  
まくせとくのゆうううとくわく  
おりまくとくわくにとくわく  
ゆうとくわくとくわくとくわく  
べきおくうせのわくわくあしつらう  
まくせぬあうわんのはくわくのうく  
くわくまくばくまくまくまく

うううでくばうきだらうとらうがから  
もひくもひくしりあくべきうまう  
をくおけまへどんこぬくべとり  
津ありきよもひくせほ。の、もの安  
房をどこあう蟹ふかねをゆうら  
せほや。ふせじてしめびのこのくは  
程におりまくやうそのはくひのまく  
やうらくらゆくをくらむとくらうる  
きばくがくもくにゆとくをゆくゆづらき  
えきをゆくばくのくじくおきもどく  
ゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆく

